

『いちょう会』だより(第14号)

コロナ禍の中、医療OBとしてできること

会長 江原和人

いちょう会会員のみなさま元気にお過ごしでしょうか。新型コロナ感染の収束と円滑なワクチン接種の実施により、一日も早い普段の生活に戻れることを願って止みません。

2020年1月20日に横浜港を出港したクルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号の乗客が新型コロナウイルス感染症に罹患後、新型コロナウイルス感染症は、世界中に蔓延した。その後ロックダウンにより感染が一時収束したかと思われたが、変異ウイルスの出現で、再び感染が広がりを見せている。

一方、数種のワクチンが開発され、日本においても年明け早々医療従事者向けにワクチン接種が開始されている。国民に対してワクチンのスムーズな供給と接種が急がれる。

昨年春に第1回目の緊急事態宣言が発せられた。閉塞感の中、医療OBとして何かできることはないかと考えを巡らしている時、折しも東京都臨床検査技師会から療養施設内コロナ感染者の検体を採取する業務職員の募集があり申し込んだ。この登録を契機に、6月～10月にかけて日本臨床検査技師会主催の「検体採取」と「PCR検査」のWeb研修、その後の神奈川県臨床検査技師会主催・県共催の神奈川県方式「スマートアンプPCR法」と「PCR検査の基礎」の実施研修を受講した。受講後、県担当者から、新型コロナウイルス感染症クラスター対策チームを秋に立ち上げる。その節は協力をお願いしたい旨の連絡があった。

昨年11月に県健康医療局長より新型コロナウイルス感染症神奈川県対策本部検体採取チーム員の委嘱を受け、12月より活動を開始した。委嘱メンバーは総勢40名、現役や退職者など様々なようである。2020年11月より新型コロナウイルス感染の第3の波が押し寄せ、12月と1月には神奈川県内においても障害者施設、デイサービス、老人ホーム、小学校や幼稚園・保育所などに新型コロナウイルス感染者が発生した。

施設感染者発生施設を管轄する保健所や保健福祉事務所(政令指定都市を除く)が検体採取チーム(保健師・事務職員・検査技師)を采配する。現地や保健所に集合し、検体採取作業は午前か午後の半日単位で行われ、現在までに5回活動に参加している。活動当日の持ち物は特になく、感染予防具等は各保健所が準備している。予防具はメーカーにより若干異なり、検体採取容器や綿棒も委託先の検査センターにより異なる。

一般に新型コロナウイルス感染者発生施設の関係職員は、唾液による採取で、高齢者や小学生低学年以下は鼻咽頭からの採取となる。初めての現場、関係者との初顔合わせなど、気を遣うことも多い。検体採取のセッティング、レイアウトや採取の手順などを打合せすることもある。

手袋は2重にするなど、最善の感染防御をしながらの「検体採取」は採取対象者の障害や認知の程度により施設職員のサポートなど、チームワークが欠かせない。常に感染防御を意識しながら良好なチームワークを保持し、誰に対しても丁寧な検体採取を心掛けている。新型コロナウイルス感染が収束するまでの間、できる限り活動に尽力したいと考えている。

さて、今回14号の『いちょう会』だよりの特集記事は、感染症や仕事・活動の話題について、4名の方に寄稿をお願いしました。どうぞ一読ください。

現在、いちょう会の年度計画の活動実施は難しい状況にあります。適宜三役会を開催し、新型コロナ感染状況やワクチン接種状況の推移を踏まえ、安全・安心を第一に各イベントの開催時期を見極めたいと考えています。なお、開催する場合には、事前に会員の皆さまにメールやはがきにて連絡致します。

一日も早く、皆さまにお会いし、楽しく歓談できる日を心待ちにしております。今年度もどうぞよろしく願います。

令和3年(2021年)いちょう会第18回総会報告

令和3年(2021年)第18回総会は書面による総会とする旨を幹事会で決定し、2021年1月5日全会員に、下記、総会議案書を発送し、1月20日締め切りで書面評決を頂いた。

記

1) 2020年度事業報告(1号議案)

2020年度は総会・新年会終了のあと、新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい、異常事態となり、いちょう会の計画されていた事業も大部分が中止となりました

- イ) 会議(幹事会2回予定が12月1回となり、3役会は通常1回の予定を急遽2回(2月・11月)の開催となりました
- ロ) 行事 新年会2020年1月30日総会終了後 市ヶ谷さくら水産にて22名の参加で開催された夜桜を観る会・新入会員歓迎会・オリンピック観戦・秋の旅行などについては3役会議で検討の結果中止
※なお、新入会員歓迎会については2020年招待予定の方は次年度(2021年で再度のご案内とする)
- ハ) ゴルフ同好会コンペ 第24回は新型コロナウイルス感染症の拡大により中止し延期となり、11月20日に千葉総武カントリーにおいて9名の参加で開催された

二) いちょう会だより13号発刊

2020年5月に発行(特集記事)「自然の猛威と向き合う」江原和人 会長(寄稿)

ホ) その他会員動向 会員数67名(会費納入)

2) 会計報告(瀬川幹事)・会計監査報告(横山監事)(別紙)詳細(2号議案)

概略: 収入は2019年度よりの繰越金56,622円 会費収入67,000円 収入計123,622円(A)
支出は通信費・消耗品・会議費(交通費)・事務手数料など 支出計:45,891円(B)
収支 (A)-(B)=77,731円(次年度繰越金)

3) 2021年度事業計画案(3号議案)

イ) 2021年第18回総会は書面对応とする

ロ) 幹事会(新型コロナウイルス感染症拡大の状況に鑑み3役会にて検討)未定

ハ) 3役会議(新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら適宜)未定

二) 行事について

①新年会(中止) ②夜桜を観る会(中止) ③新入会員歓迎会(新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら検討)

④オリンピック観戦企画(新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら検討) ⑤秋の旅行実施予定(新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら検討)

ホ) 同好会 ゴルフ同好会コンペは実施予定(新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら)幹事一任

へ) いちょう会だより14号発行について 2021年5月発行予定

※その他 訃報 山本正規様は2020年9月 逝去されました 謹んでお悔やみ申し上げます

総会議案と書面評決の結果報告(会員数67名のうち58名の返信その内の書面評決票です)

- 1号議案 賛成58 反対0
- 2号議案 賛成58 反対0
- 3号議案 賛成58 反対0

アンケート調査集計結果

- 新入会員歓迎会については、24名の方が案内希望
- ゴルフ同好会参加申し込み 15名
- 旅行案内 25名
- オリンピック観戦 18名

※2021年に退会申し出が2名(桂川栄一郎様・蟹由公子様)

2020年(令和2年)行事・同好会の報告

2020年 新年会報告

2020年1月30日(木)17時から市ヶ谷駅前のさくら水産にて、22名が参加し江原会長の乾杯で開宴となり運ばれて来る料理と飲み物で、久しぶりの再会で積みもった日常の話題で大いに盛り上がりあつという間にお開きの時間となり、それぞれ家路に……(それ以後のいちょう会の行事・活動はご案内のとおり新型コロナウイルス感染症拡大により現在に至っております、一日も早い終息を願い、またの再会を祈るばかりです)

参加者名(敬称略)今西昭雄・宇津木道弘・江原和人・神永貞信・神永教子・桂川栄一郎・桑名房一・後藤 清・司茂幸英・下杉彰男・瀬川真知子・田宮喬行・滝澤 旭・竹重三八男・長島義男・野本剛史・松永義朗・箕輪正和・山屋駿一・横山春海・横山啓介・吉田 陞)以上22名 (松永 記)

第24回 ゴルフ同好会コンペ報告

2020年はコロナウイルス感染症拡大の影響で、春に予定されていた24回コンペは中止・延期となり結局、秋となり、当初、10月23日予定され13名の参加申し込みで計画されましたが、荒天予報により急遽11月20日（金曜）に順延となったため、4名の方が都合悪く9名3組でスタートとなった。

日 時：2020年11月20日（金曜）天候曇り

場 所：千葉県印西市 総武カントリークラブ（印旛コース）

参加者9名3組は、7時30分に集合し、印旛コースIN8時スタートを前に挨拶やルール説明のあと、参加者全員で記念の集合写真を撮り、それぞれに日頃の実力を胸に秘めながらスタート……

午前のプレイを終えて昼食、ゴルフ場も従来とは異なり、コロナ感染対策がとられ、非常事態であるという雰囲気があったところで感じられた。午後のプレイを終え入浴を終えすっきりとなったところで、いちょう会恒例のケーキパーティー幹事より結果発表と表彰式、副賞は倶楽部推奨の産直の豪華な賞品が配られ、そのあと、恒例の優勝した福田さんによる喜びのスピーチと抱負を語って頂いた。

そのあと、これからの事について意見交換があり、お開きとなりまたの再会を楽しみに散会となり、各々……賞品をお土産に家路についた……

それでは、大変お待たせいたしました、結果発表です

第24回いちょう会ゴルフコンペの結果と参加者メンバー

優勝 福田 力 様 OUT 41 IN 42 グロス 83 ハンディ 4 NET 79

準優勝 後藤 清 様 OUT 49 IN 55 グロス 104 ハンディ 21 NET 83

3位 松永 義朗 グロス 117 ハンディ 32 NET 85

参加者名簿（敬称略）9名

石塚一宏・巖田征彦・高加国夫・後藤 清・竹重三八男・長島義男・野本剛史・福田 力・松永義朗（松永 記）

2020年度会計報告 2020年1月1日～12月31日

収入の部

項目	金額	適要
前年繰越金	56,622	2019年よりの繰越金
2020年会費	67,000	年会費1,000円×67名
新入会歓迎参加費	0	事業中止のため
雑収入	0	なし
合計	123,622	

支出の部

項目	金額	適要
事業費	0	感染拡大のため事業中止（延期）
通信費	19,215	切手・ハガキ代、郵送料など
会議費（交通費）	17,330	三役会2回・幹事会1回
事務消耗品費	1,840	封筒など事務用品
事務振込手数料	7,506	郵便口座手数料42名分
次年繰越金	77,731	現金37,663+郵便振替口座残高40,068
合計	123,622	

2020年「いちょう会」会計監査報告

2020年12月31日、会計帳簿および領収書等監査した結果適正に処理されておりましたのでご報告いたします。

2020年12月31日 会計監査 横山 啓介 ㊞ 捺印省略

【その他】（2021年いちょう会事業について）

★ 1.2021年事業について（3役会での検討事項について）報告 4月7日現在

①新入会員歓迎会②オリンピック観戦③旅行などの諸行事については、何れもコロナウイルス感染症の状況とワクチン接種状況により、適宜3役会で検討したしお知らせする④ゴルフ同好会について（幹事一任とする）

感染症-四方山話-

下り坂 NanajiU

「細菌」で人生（臨床微生物学）のフェードアウトかなと思いきや、もっと小さい「ウイルス」による感染症で人生（命）の終焉？・とも思われた。「だいじょ〜ぶだ〜!!」の元気な声で、復帰を期待していた同世代の志村けん（芸人）さんが、新型コロナウイルス感染で亡くなられたのは2020年3月29日でした（合掌）。新型コロナウイルス感染症の病気の正式名称は Coronavirus Disease 2019 略称『COVID-19』である。病名はWHO（世界保健機関 事務局長テドロス・アダノム氏）で命名され2020年2月11日に発表された。読み方はコヴィットナインティーン。

新型コロナウイルス感染症がパンデミック（感染症の世界的大流行）と宣言されたのは2020年3月11日であった。アダノム氏が代表に就任してパンデミック宣言は6回目である。現在コロナウイルスは50種類以上あり、ヒトへの感染症には小児に感染する『たいてい風邪』と診断されている4種類。それにSARS（重症急性呼吸器症候群2002年〜2003年）、MERS（中東呼吸器症候群2012年〜）で6種類とされていた。SARSはアジアやカナダを中心に感染拡大し、厚労省によると日本では、疑い例が報告されていたが、症例検討の結果、すべて否定された。感染経路は、飛沫感染が主体で、潜伏期間は2〜7日間、最長10日間程度でした。症状は最初発熱、筋肉痛など、突然のインフルエンザ様症状で発症。その後肺炎等へ進行し、咳、呼吸困難や水っぽい下痢を発症し、この時期が感染性のピークとなる。治療法はいまだ確立されておらず、対症療法となる。新型コロナウイルス感染症

(COVID-19)の発生場所としてはWHOが中国武漢市に入り調査している段階である。感染経路はヒト-ヒト感染は飛沫感染・接触感染であり、感染予防にマスク・手洗いは必須である。今回のヒト感染コロナウイルスは、7種類目の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)で世界に蔓延している。猖獗なウイルスに人類は翻弄されている。ここにきて「エアロゾル感染」がニュースとなっている。横浜港に停泊したクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」では、空気中に漂う微粒子(エアロゾル)による比較的離れた距離(3m)での感染が、約3分の1を占めたとする推定結果を、米ハーバード大公衆衛生大学院などの研究チームが発表した(2021/2/5)。新型コロナウイルス感染症の新規感染者減数に向けて新しい生活様式として、行動自粛、ソーシャル・ディスタンス、手洗い、うがい、『三密』『5つの小』『マンボウ』等、対応策は続けている。Withコロナで収束するためにインフルエンザ同様、ワクチンは必須である。世界の製薬メーカーは『ワクチン』の開発・製造・供給に躍起になっている。現在ワクチンは7種類あり、弱毒化(生)ワクチン、不活化ワクチンは周知のように起因ウイルス自体を使用するため、承認・認可までには長期間かかる。今回の新型コロナウイルス感染症の開発ワクチンは主なものだけでも、(1) ウイルススペクターワクチン (2) メッセンジャーRNA (mRNA) ワクチン (3) DNA ワクチン (4) 組み換えタンパク質ワクチン (5) 組み換えウイルス様粒子 (VLP) ワクチン——と様々で、誘導できる免疫応答の種類なども異なっている。現在、世界で進んでいる新型コロナウイルスのワクチン開発の特徴は、古典的なものから先端的なものまで、多様なモダリティ(治療手段)のワクチンが一挙に開発されている。新開発のワクチン接種は副反応等の不安もあるが、『リエキ』と『リスク』を考えると利益が勝ると考える。

新型コロナウイルス対策のワクチン接種は日本では2月17日から医療従事者を対象とした先行接種としてスタートした。3月から多くの医療従事者、4月以降に高齢者や基礎疾患のある人を優先して接種を行う計画だ。昨年インフルエンザの感染ニュースがほとんど無く、インフルエンザの患者数が、昨年同期の1500分の1という極めて低い水準となっている。危惧されていた新型コロナウイルスとの同時流行は、今のところ起こっていない。厚生労働省は秋以降ずっと低水準が続いている要因について、新型コロナウイルスの感染拡大でインフルエンザワクチンの早期接種、マスクの着用や手洗いの徹底、3密の回避といった対策が行われ、海外との往来が減少している影響が大きいとみる。他のウイルス性疾患も激減している。ウイルス干渉が一因とも考えられる。ウイルス干渉とは、先にあるウイルスが流行していると、他のウイルスの流行が抑制される現象で、医学会やウイルス学会では良く知られている事です。事実2020年の夏は例年の夏と違い、いわゆる夏風邪(手足口病やヘルパンギーナやプール熱)がほとんど流行しませんでした。加えて、ここ数年夏から流行していたRSウイルスも流行していま

せん。新型コロナウイルス感染症の収束へ向かう道半ば（2021年3月29日現在）のマスメディアの拾い読みの内容でした。収束（終息）への道のりは前途多難と考えている、臨床微生物学を少しばかり齧ってきた筆者です。会員の皆さんの『茶請けの菓子』になればと、ペンを持たせて頂きました。お大事に !!

【特集記事】2

バトミントン競技について（バトミントン競技の見どころ）

専修大学女子バトミントン部監督

竹重 三八男

1. 人気急上昇 2016年リオデジャネイロオリンピックで行われた女子ダブルスにて日本の高橋、松友ペアが金メダルを獲得しました。そのお蔭で女子高校生の部活人数はバレーボール（57千人）バスケット（56千人）バトミントン（56千人）とほとんど差がなく卓球の2倍の部員数となっています。
 2. 打球の初速が一番早いスポーツ 野球 160Km、テニス 200Km、バトミントン 400Km あくまでも一流選手の値ですが終速はほぼ、0、になります。
 3. シャトルコック。（shuttlecock）バトミントン競技の羽根。 ※シャトルは往復するの意味
羽根は「ガチョウ」の羽を使用しています。最初はシャンパンの栓に鳥の羽を刺した物がシャトルの始まりと言われています。ガチョウの羽16枚を使用し全長7cm、重さ5g位です。中国の食用ガチョウの羽根を使用していますが、シャトルの為殺すのではなく、食用に加工する過程で抜けた羽根を使います。シャトル1個に8羽以上のガチョウが必要。※天然ですから使える均一な羽根は少ないという事です。
ガチョウの羽根を使い続ける問題点が2つありまして、一つは中国の食糧事情が変化してきてガチョウを余り食べなくなった事です。もう一つは球技で天然のボールを使用しているのはバトミントンしかありません。それで大手スポーツメーカー「ミズノ（株）」では人工のシャトルを開発し販売していますが、公式戦には使われていません
 4. 何処の国が強いのか 昔はインドネシア（国技）、中国が強かったのですが、今は日本が最強です。男女シングルス、ダブルス、混合で5個の金メダル獲得も夢ではないと思います。
東京オリンピックでの皆様の応援よろしくをお願いします。
- ★バトミントン競技の見どころ バトミントンはボールではなくシャトルを使うという点で、他のスポーツとは異なる特徴を持った競技です。軽いシャトルをラケットで打合うため、トッププレイヤーでは初速が400km近くのスピードになることもあります。また反対に、ネットプレーでは0km近くまでそのスピードが落ちます。こうした極端な緩急によるダイナミックな試合展開がバトミントンの醍醐味と言えます。そしてバトミントンは相手をだますスポーツです。野球のピッチャーが同じフォームでストレートとフォークを投げ分けるのと一緒です。相手が一步も動けないのはフェイントの効いたショットが打てた証拠です。

★大学スポーツにおける監督の役割

- 育てる3ヶ条 ① 知育（知識としての学校教育）② 体育（スポーツ部における強固な精神力、体力の養成）
③ 徳育（社会人として有るべき心得を身に付ける）

※特に3番が大事ですが挨拶、感謝、笑顔で1時間講義しています。眠らないように話すのが大変です

【特集記事】3

新型コロナウイルス感染症拡大中 献血呼びかけに参加して

佐伯かよ子

新型コロナウイルス感染症拡大の中、吉祥寺駅前献血ルームタキオンで、2006年東京都検査技師会より離れ、個人ボランティアとして登録、献血呼びかけボランティアとして独立、現在もいちょう会に属している4名（市来、滝沢、中川、佐伯）と検査技師出身の1人の5名で都臨検グループを結成、細々と原則月2回献血呼びかけ活動を続けています。とは言えコロナ禍中、血液センターから中止の連絡を頂いたり、献血提供者の不足による輸血用血液逼迫状態のなか、少しでも回避にと呼びかけ依頼があったりしています。昨年3月よりは呼びか

けと言っても声掛けではなく、マスク姿で案内板をもって立っているだけです。

献血提供不適者の中に新型コロナウイルス感染症罹患者も入り、また、ワクチン接種後どのくらいの時期で供血者になれるかまだまだ検討段階と伺っております。活動後の楽しみの一つが終了後の食事会です。

早くおしゃべりを楽しめる日々になりますようお願いばかりです。

【特集記事】4

新型コロナウイルス感染症対策での授業風景

瀬川真知子

臨床生理学検査の実習非常勤講師をしています

第一波の時は休校となり、代わりに課題のレポートを提出してもらいました。三回のレポート提出後に実習が復活し、予習した後の実習は意外な効果がありました、検査への理解度を高めたことです。

講義の方はオンライン授業となりその苦労たるや、学生も教員も校外講師も大変な労力を要求されていました。さらにオンライン授業の環境が不調な時に備えるために、学校に出向き校内発信したり、あるいは板書しながら解説をビデオ発信したりと不慣れななかで、全てが不安定な環境でした。

学校側のコロナ対応も一仕事でした。学年ごとに一時限目開始時間の時差通学を指示し、結果として学生の昼休み時間は30分間だけになっていました。教員は昼休み時間無しで実習前後の机・椅子などの消毒を行い窓を開放し、フェースガード着用・マスク着用・廃棄物は個々に袋詰め処理等々の指示だして手一杯でした。

生理検査は、人対人となり体に触れることも多く検査説明し患者に協力してもらうことも多く感染リスクが高いと痛感しています。新型コロナウイルス感染症が起きていなくても、医療にかかわる人は最善の注意を払って臨んでいたはずでした。エッセンシャルワーカーと呼ばれて嬉しくもなく怖いばかりですが、正しい知識と手段を身に付けて活躍して欲しいと願います。そして今、あらゆる業種で個人が感染対策を遵守する時を迎えています。そんな中でも今年度の学生は4月の授業を学校で一緒にできました、新学期を迎えた嬉しい顔に直面出来ました。必要とされている仕事にかかわる資格を取りたいという意欲をしっかりと感じました。

少しでも応援してあげたいとの想いです。



2020年1月30日
2020年新年会



2020年11月20日
第24回ゴルフコンペ

※ お願い2021年いちょう会 会費未納の方へ

2021年5月1日現在、2021年度会費1,000円未納の方には今回、いちょう会だより第14号発送と一緒に振込み用紙を同封いたしますので納入方よろしくお願ひいたします。

★もろもろの連絡先：松永義朗 090-9953-6691 江原和人 090-2218-8362